

淀川水系流域委員会様

2005年8月

緑と環境をまもる箕面まちづくりセンター

事務局長 岳野興一

余野川ダム中止と猪名川流域の総合治水対策推進について 意見書

最近、豪雨や台風による災害が多発し、災害から生命と財産を守る期待が高まっていますが、今年度の防災治水予算は、対前年比 680 億円減額し、そのなかでも不要なダム建設を推進しようとしています。

このなかで私たちは、余野川ダム中止発表を歓迎するとともにダムに替わる堤防補強などをはじめ、環境にやさしい新しい総合的な地域治水、雨水流出抑制対策などにより猪名川の治水レベルの向上、多田狭さく部と絹延橋など堤区間の整備、流域中小河川の都市水害対策、浸水対策の前進を強く期待しているところです。

ところが、国土省近畿整備局による余野川ダムの代替案の検討は、河道計画と堤防補強などが中心で 21 世紀の検討、明るい検討課題、と少し視野が狭いようであります。

わたしたちは、流域委員会において、猪名川流域の直轄区間をはじめ、その府県・自治体管理の全ての河川において、その河川改修や地域治水で都市水害をなくす防災治水対策は流域の経済的なものであり、必要予算の確保も合わせて次の検討をして頂きますよう意見書を提出いたします。

1. 水害危険エネルギー（潜在的な）これ以上増大させないこと

流域の 43 局の大都市開発計画（猪名川 50 年史）や大規模開発は、社会的にも経済的にも大きく変化しており、これ以上の開発を中止し、猪名川の大洪水や多田水害の要因を拡大させないこと。

かつての高度経済成長時代における、河川改修途上のその上流域の乱開発が、東多田地域の猪名川大洪水の大きな要因の 1 つであり、しっかりと 21 世紀の防災治水対策の教訓に生かすことです。

更なる都市開発は、流域の保水能力・遊水能力を低下させ、余野川ダムによらない猪名川の治水レベルの向上に新たな困難を持ち込むものです。

2. 森林治山のすすめ、社会的サービスの助成のすすめ

豪雨による猪名川などへの洪水負担を抑制・減少させ、治水安全度を向上させるために、治山治水対策計画と全ての流域対策の導入計画づくりが求められています。

針葉樹林の手入れをよくし、広葉樹林を増やして森林の保水能力・涵養水源を向上させる。治山治水対策をすすめ、清流を取りもどし、環境の改善をはかる。

これらの農林業者は、営農を続けることにより、誰からも払いを受けることなく保

水・環境・自然を管理する公共サービスを社会に提供しており、農業や林業を続け災害対策のうえで農林業の果たしている役割を重視し続けるためには、「農林業者の収入を増やすことによって、農山村社会の生活水準を確保・向上できる」その適切な報酬制度を1日も早く確立し、報酬費を払う十分な予算の確保が求められているのである。

3. 近くの雨水流出抑制対策で、浸水対策と未処理下水などの改善

猪名川流域の下水道が普及しても、更なる開発により不浸透域の拡大と田畑の減少で、各地の浸水は解消されず、逆に新たな水害を起こしています。1時間数ミリの雨で、その合流式下水道から川に未処理汚水が混入するため、公衆衛生や水質悪化など河川環境改造の大きな課題です。

未処理混入の公衆衛生問題や、河川水質環境悪化の改善は、合流式下水道へ雨水流入量を減らす校庭貯留や公園・公共敷地、企業や各住宅などに雨水流出抑制（貯留、浸透、雨水利用）対策が効果的だといわれています。

この身近な地域対応と対策により、雨水流出を抑制すれば浸水の解消と河川への雨水流出抑制対策もあり、流域から下水道と協力して重点的に推進すること。また「みんなで守る」ためにも、大雨の時には洗濯をひかえる、風呂の水を流さないことをもっとPRすること。

4. 導水トンネルの有効利用効果の大きな、近くの地域治水の促進

ダム設計・調査費と工事費、保持補強費に加え、ダム大体堤防（治水）補強と、撤去費も入れたダムのライフサイクルコストは極めて高額です。ダムを寿命から考えればその効果は一時的にしか発揮できず、余野川ダムについて費用対効果の側面から中止すること。

ほぼ完成の導水トンネルを流域調節池としての有効利用を検討し、余野川の50ミリ対策を急ぐとともに、治水レベルの向上を図ること。

災害を「みんなで守る」「自分で守る」「地域（自治体）で守る」ためには、ハザードマップづくりと説明、避難訓練などの「ソフト対策」はもちろん、近くの地域治水の貯留・浸透・ミニダムなど総合的なハード対策を重視して推進すること。

昨年の大水害を契機に「緊急的に対応する具体的施策」として「降雨技術を活用した事前放流などのダム機能をより有効に活用できるように操作ルールを作成」を国土省ホームページにあげています。一庫ダムの利水機能を再検討し、社会経済に合わせて、多田狭さく部の解決まで、暫定事前放流、早期放流をただちに実施し、東多田の水害を減らすよう検討すること。

遠くの大規模調節池（約1万㎡）の建設コストが1㎡当たり15～20万円と比較し、各戸貯留・浸透ますや（雨水利用などは1㎡当たり4～5万円と安くて、地元中小建設向けで、地域でお金がまわり、費用や税収効果にもつながるといわれ、その効果は一石三～四鳥にもなるものです。